

継続事業評価調書

【河川事業】

一級河川淀川水系 猪名川

県土整備部

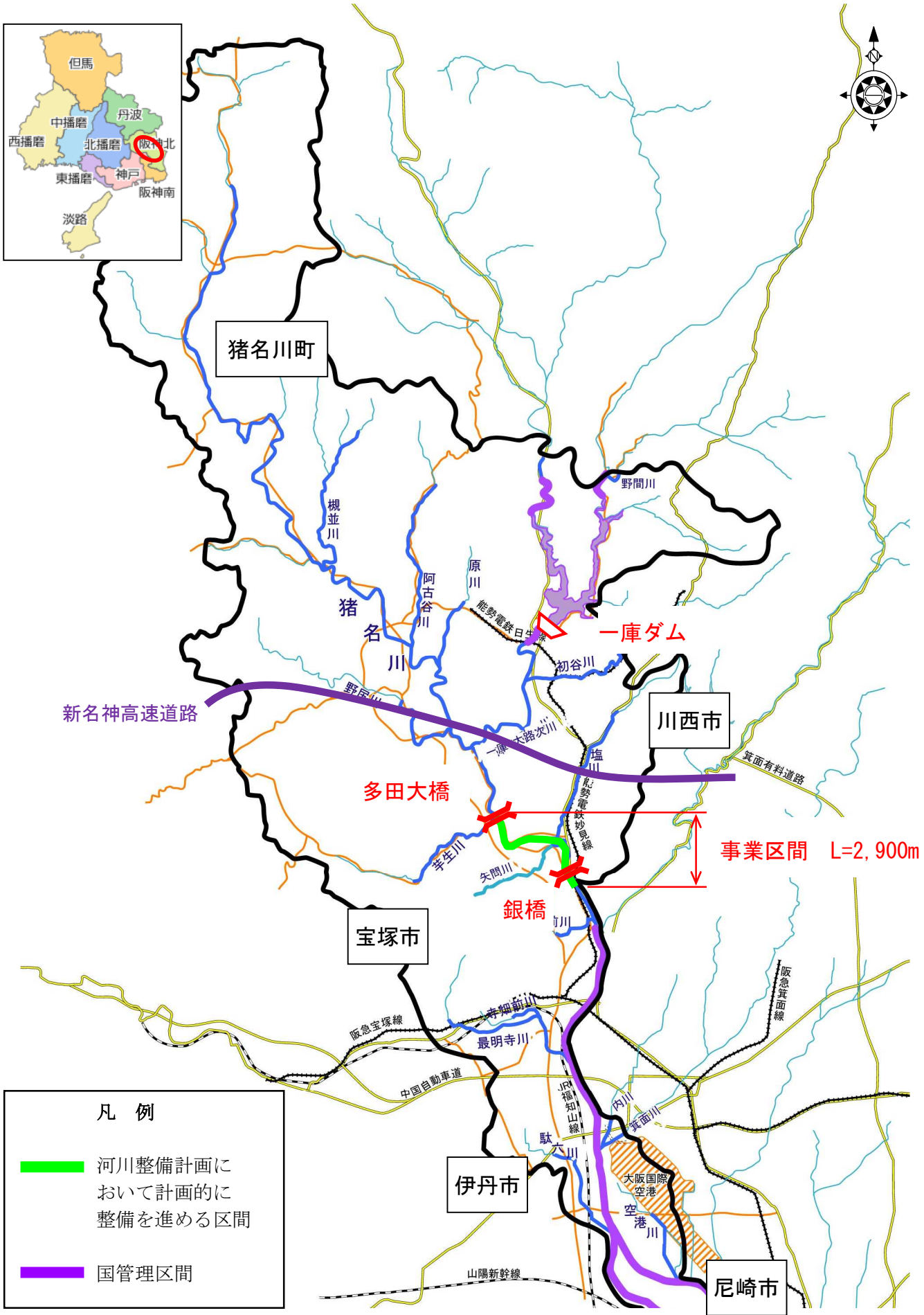
土木局 河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福田 嘉孝 (企画整備班主幹 森野 正之)	内線	4408 (4437)	
事業種目	河川事業	水系名	淀川水系			
事業目的						
河川整備計画（平成28(2016)年3月）に基づく流下能力を確保することにより、治水安全度を向上し、地域住民の安全・安心を確保する。						
淀川水系猪名川圏域河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」						
本川						
区間	延長	整備目標流量		事業の状況	前回評価年度	
猪名川	2.9km	戦後最大の被害を発生させた昭和42年7月洪水と同程度の洪水（概ね20年に1回の確率で発生する降雨による洪水）を安全に流下	銀橋 1,400m ³ /s	事業中	H28(2016) 整備計画 策定報告	
事業概要および進捗状況						
				今回評価内容（ ）：前回評価時点		
工区	事業区間	整備内容	評価対象区間の事業費	残事業費	進捗率	完成 予定 年度
			内用地補償費	内用地補償費	内用補進捗率	
淀川 水系 猪名川 圏域	猪名川	川西市鼓が滝～ 川西市多田院 河道改修2.9km 橋梁2橋	35億円 (30億円)	13億円 (30億円)	63% (0%)	R7 (R5)
			5億円 (5億円)	4.5億円 (5億円)	10% (0%)	
水系計			35億円 (30億円)	13億円 (30億円)	63% (0%)	R7 (R5)
			5億円 (5億円)	4.5億円 (5億円)	10% (0%)	
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	当該区間では昭和42(1967)年7月梅雨前線による豪雨、昭和58(1983)年台風第10号、平成26年8月豪雨などにより発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、近年、令和2年7月豪雨など、全国で記録的な豪雨による災害が頻発していることから、河川改修に対する要望も強く、事業の必要性は高い。					
	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 [事業費] 現地精査の結果、当初想定していた施工条件の変更による事業費の変更（5億円増） ・岩種の変更（軟岩→硬岩）に伴う掘削費の増額 ・護岸施工時の湧水に伴う仮設矢板工・地盤改良等の追加 [事業期間] 下記理由による事業期間の変更（2年延伸） ・銀橋の暫定開削（910m ³ /s）は完了しているが、整備計画目標流量（1,400m ³ /s）での開削の条件である安威川ダム（大阪府施行）の管理運用開始が令和5年度末に予定されているため、銀橋の開削に2年（令和6年度着手（令和7年度完了））を要すること ・御社橋架替えについて、地図混乱の処理や景観検討に関する関係機関協議に時間（2年）を要すること					

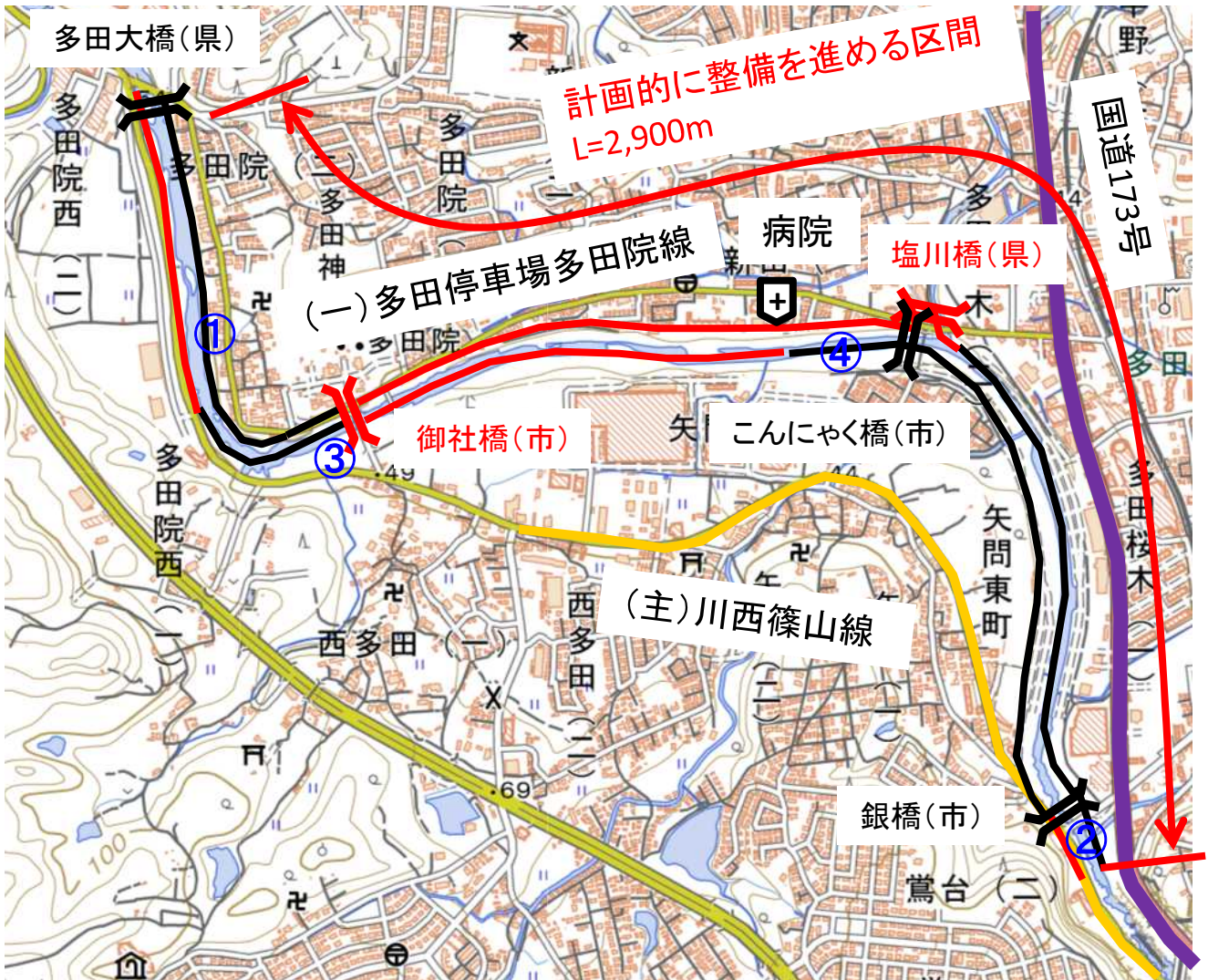
進捗状況	<p>[用地関係] こんにやく橋～御社橋の用地取得を実施中。</p> <p>[工事関係] ① 銀橋の暫定掘削（910m³/s対応）が平成29年度に完了した。 ② 多田大橋～御社橋の県道川西篠山線（現市道）の付け替え工事が平成29年度に完了した。 ③ 築堤・護岸については、銀橋～御社橋の整備（L=1.8km）を進めており、銀橋～こんにやく橋の整備（L=0.9km）は令和2年度に完了予定。 ④ 塩川橋は上下部工を施工中、御社橋は詳細設計を実施中。</p>		
評価視点	評価結果の説明		
審査会意見及び対応方針 (H28年度策定報告)	<p>【審査会意見】 銀橋から下流の景勝地（露岩）を保全すること</p>	<p>【対応方針】 岩盤を掘削する際は、現況の滯筋等を維持するよう努める等、景観に配慮した整備を行う。</p>	
(1) 必要性	<p>① 当該区間では昭和 42(1967)年 7月梅雨前線による豪雨、昭和 58(1983)年台風第 10号、平成 26年 8月豪雨などにより発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、近年も令和 2年 7月豪雨など、全国で記録的な降雨による災害が頻発していることから、河川改修に対する要望も強く、事業の必要性は高い。</p> <p>【近年の主な浸水被害実績】 ※流域全体の実績 昭和 42(1967)年（床上 17,653 戸、床下 75,779 戸） 昭和 58(1983)年（床上 353 戸、床下 2,854 戸） 平成26(2014)年（床上3戸、床下18戸）</p> <p>② 多田地区の市街地、国道173号、県道川西篠山線・多田停車場多田院線、病院等を浸水被害から守るため、継続的な河川改修が必要である。</p> <p>③ 平成30年7月で異常洪水時防災操作を実施した一庫ダムでは、猪名川の河川改修の進捗を踏まえ、最大放流量を150m³/sから200m³/sに拡大した（令和元年6月）。一庫ダムの治水機能をより発揮させるには、さらなる最大放流量の拡大を可能にするための河川改修が必要である。</p>		
(2) 有効性 ・ 効率性 (事業執行環境)	<p>① 費用便益比：B/C=2.4 ② 河川整備計画を平成28（2016）年3月に策定済。 ③ 当該区間直下流の国管理区間の河川改修が進んでいるため、当該区間の河川改修の執行環境が整っている。 ④ 地元から早期事業完了の要望がある。 ⑤ 川西市と多田神社周辺の景観検討や用地交渉に連携して取り組むなど、事業促進に関して協力体制が整っている。</p>		
(3) 環境適合性	<p>河床の掘削に際しては、水質汚濁防止など適切な対策を行うとともに、岩盤を掘削する際は、現況の滯筋等を維持するよう努める等、景観に配慮した整備を行う。</p>		
(4) 優先性	<p>残事業区間には人家連担区域や国道173号、県道、病院等があり、流下能力不足による浸水被害が想定されている。</p>		
の再評価結果	継続	理由	<p>事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。</p>

淀川水系猪名川圏域河川整備計画 全体位置図



- 凡例
- 河川整備計画において計画的に整備を進める区間
 - 国管理区間

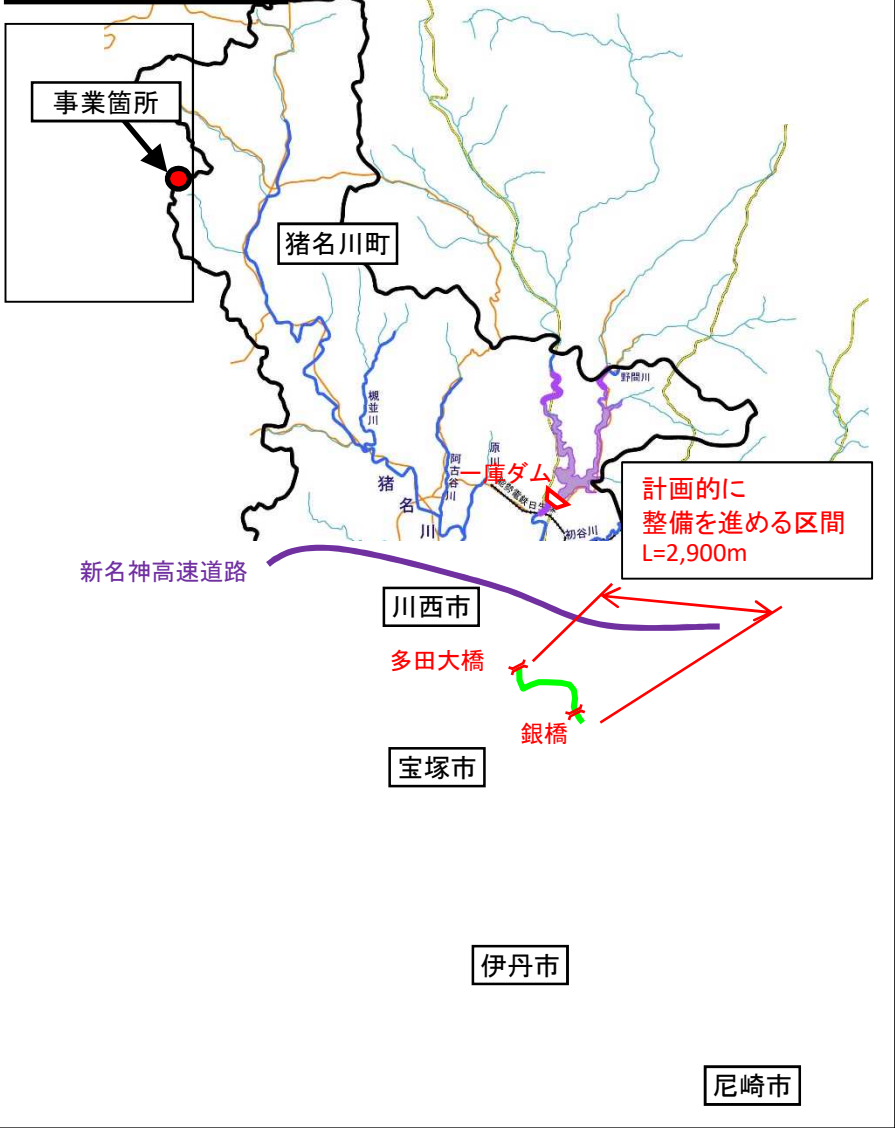
淀川水系猪名川圏域 事業進捗状況概要図



工区	全体	過去5年間	今後5年間
猪名川	H28～R7 年度 【事業費＝35 億円】 ・整備延長 L＝2,900m ・整備概要： 築堤、護岸、河床掘削、橋梁	H28～R2 年度 【事業費＝22 億円】 ・築堤、護岸、河床掘削	R3～R7 年度 【事業費＝13 億円】 ・築堤、護岸、河床掘削、橋梁
		段階的な流下能力の確保 [銀橋：910m ³ /s]	流下能力の確保 [銀橋：1,400m ³ /s]

河川事業 一級河川淀川水系 猪名川 (継続:再評価〔第1回〕)

位置図



目的

河川整備計画(H28.3)に基づく治水安全度の向上
 昭和42年7月洪水(戦後最大の被害)と同程度の洪水(概ね20年に1回の確率で発生する降雨による洪水)を安全に流下させる

事業概要

事業区間：川西市鼓が滝～多田院
 総事業費：35億円
 うち用地補償費：5億円
 事業期間：H28～R7
 事業概要：河道改修、橋梁2橋
 延長：2,900m
 費用便益比B/C：2.4

浸水実績

浸水実績(昭和58年台風第10号)



横断図

